

報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

留学ジャーナル『留学白書 2018』を発表

～カナダが3年連続留学先1位で人気留学先としての地位を確立。中高生・社会人の留学者数が過去最高～

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル（本社：東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル、代表取締役社長：高木 憲一郎、以下「留学ジャーナル」）ではこの度、日本人留学生および留学希望者の動向をさまざまな視点から調査・分析する『留学白書 2018』を取りまとめましたので、ここに調査結果の要旨をご報告いたします。主な調査結果の概要は下記の通りです。

＝調査結果トピックス＝

【「留学ジャーナル利用者に見る傾向」データより抜粋】

■留学先人気のトップは3年連続カナダ。治安の良さで定評のあるオーストラリアが2位浮上となり、アメリカと順位が逆転

2017年に留学ジャーナルを利用して留学した方の人気留学先は1位がカナダと、3年連続不動の地位を築いています。2位は昨年のアメリカに代わりオーストラリアが浮上、アメリカは3位に順位を落としました。さらに昨年4位のニュージーランドは5位にランクを落としたのに対しイギリスは前年比20%と4位に戻る結果となりました。留学検討者の希望留学先もカナダが1位となり、近年カナダは人気の留学先として安定した地位を確立しています。

■高校生までの留学相談件数は7年連続増加、高校留学出発者も前年比20%増と過去最高。社会人は40歳以上の出発者数が3割以上増加と過去最高に。

2017年の高校生までの留学相談件数は前年比12%増加となり、7年連続増加しています。なかでも若年層における留学への関心は年々高まっており、相談内容は春・夏休みを利用した小中学生の語学留学が約5割、高校留学が4割以上となりました。官民協同の留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム高校生コース」の募集で機運の高まる高校留学は、出発者数が前年比2割増となり、5年連続増加、過去最高となりました。

なお留学ジャーナルを利用して出発した社会人は特に40歳以上で2桁の伸びが見られ、40代で27%、50代は12%、60代以上では80%の増加と急伸びしました。政府による人生100年時代を見据えた働き方改革が推進される中、大人の学びの場としてリカレント教育に注目が集まり、今後政府や企業の後押しを受けますます伸びていくと推測されます。

【「留学意識調査アンケート結果に見る傾向」データより抜粋】

■留学検討者でも日常的に外国語学習に励んでいない実情が明らかに。大学生の8割、高校生の7割が自主的な学習をしていないと回答

昨年留学ジャーナルに相談に訪れた方を対象に、自主的な外国語学習をしているかを調査するため、大学生に「学校以外で外国語を勉強していますか」、高校生に「学校と塾以外で外国語を勉強していますか」とそれぞれ質問したところ、大学生の8割、高校生の7割が「していない」と回答しました。

一方で、社会人の留学検討者は外国語を身に付けなければならない状況にある方が多いためか、日常的に外国語を勉強している方は5割との結果になりました。

■7割の社会人が「留学を学生時代に経験しておけばよかった」と回答

留学をしようと思ったきっかけとして「もともと留学に興味がある」と答えた100名に「留学を学生時代にやっておけばよかった」と後悔の気持ちはありますか？と尋ねたところ、7割が「はい」と回答。また、語学力を身に付けたい理由は男女ともに「趣味・自己啓発のため」がトップを占めました。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は「留学白書 2018」の一部となります。「留学白書 2018」の詳細をご希望の方は、下記までお問い合わせ願います。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～

株式会社 留学ジャーナル 広報担当：石澤、久保

TEL：03-5312-4623 FAX：03-5312-4469

E-mail：pr@ryugaku.co.jp URL：http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」：https://www.facebook.com/RyugakuJournal

< 参考資料 >

■ 調査結果サマリー

① 「留学ジャーナル利用者」にみる傾向」データ編

【データの概要】

調査対象：全国5カ所（東京、大阪、名古屋、広島、福岡）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方、ならびに留学ジャーナルを利用して渡航された方のデータ。

対象期間：2017年1月1日～12月31日

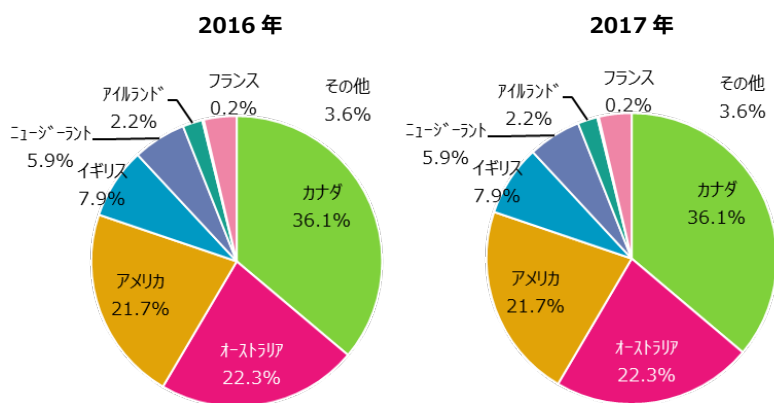
1-1. 「人気の留学先」について

■ 留学先のトップは3年連続カナダ。治安の良さと定評のあるオーストラリアが2位となり、アメリカと順位が逆転

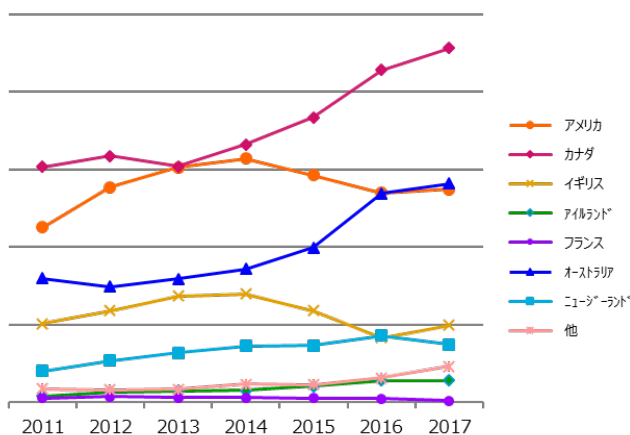
2017年に留学ジャーナルを利用して留学した国は、1位がカナダ、3年連続不動の地位を築いています。2位は昨年2位だったアメリカに取って代わり、治安の良さと人気のオーストラリアが浮上しました。3位のアメリカは前年比2%増となったものの、オーストラリアが前年比5%増となり順位を落としました。昨年4位のニュージーランドはランクを落としてしまったのに対し、昨年5位のイギリスは前年比20%増で4位に戻る結果となりました。

また、昨年留学ジャーナルに個別相談に訪れた初回相談時の人気留学先は、1位にカナダが浮上、アメリカは2位と4年ぶりにトップが入れ替わりました。3位はオーストラリアが前年と同様の順位になっています。トランプ大統領の影響が懸念されたアメリカは、希望者が前年より10%減りました。イギリスは欧州離脱に関する何らかの影響が懸念されましたが、今回の調査では前年に比べて4%増で昨年と変わらず4位となり、続いて、ニュージーランドの順となりました。

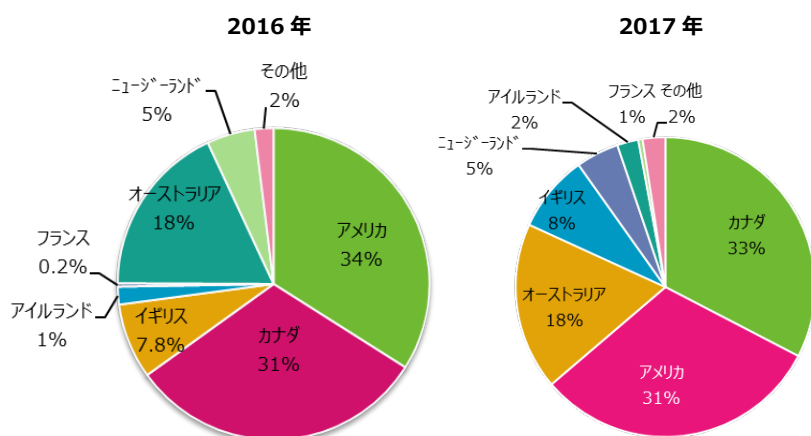
人気の留学先(出発者)



出発者数6年間の推移



人気の留学先(相談者)



留学ジャーナルの考察：

カナダが人気の留学先であり続ける理由は、教育水準が高いこと、次にトロント・バンクーバーの2都市は大都市でありながら、自然が多く、治安もよく住みやすいこと、比較的物価が安価で、留学費用を安く抑えられることや、多民族文化が共存していて国際色が豊かであることなどがあげられる。アメリカがトップからランクダウンしたのは、為替レートの影響で留学費用が総じて高値になってしまったために、費用重視派から敬遠された可能性があるかと推測する。

1-2. 「留学ジャーナル利用者数・相談者数の推移」について

■高校生までの留学相談件数は7年連続増加、高校留学出発者も前年比20%増と過去最高。

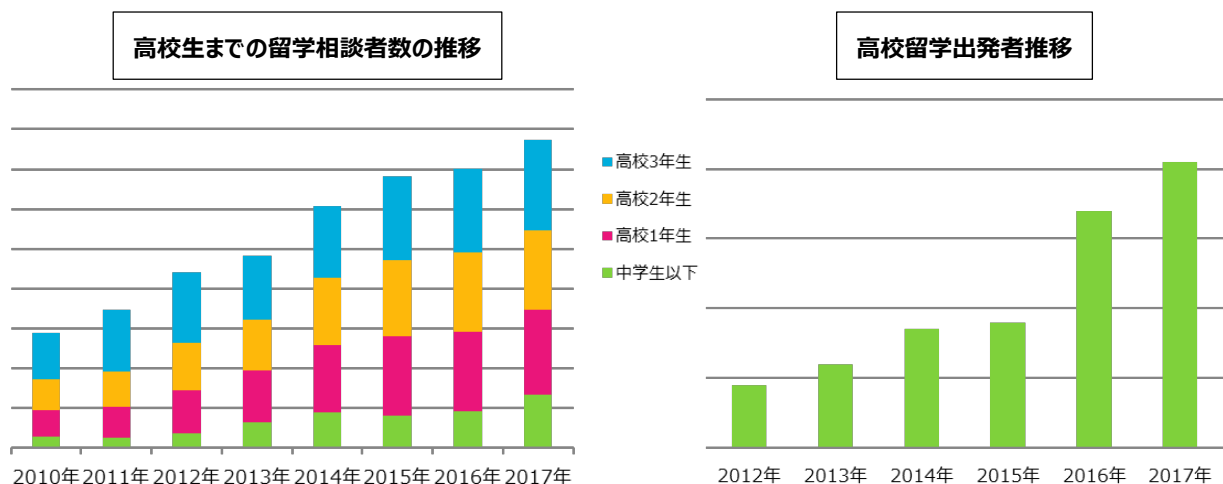
社会人は40歳以上の出発者数が3割以上増加と過去最高に

・小中高校生

2017年の小学生から高校生までの留学相談件数は前年比12%増加となり、7年連続増加しています。なかでも若年層における留学への関心は年々高まっており、相談内容は春・夏休みを利用した小中学生の語学留学が約5割、高校留学が4割以上となりました。

官民協同の留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム高校生コース」の募集で機運の高まる高校留学は、出発者数が前年比2割増となり、5年連続増加、過去最高となりました。

高校留学に関する相談件数も前年に比べて3割増加し、特に中学3年生が7割増と大きく伸びています。

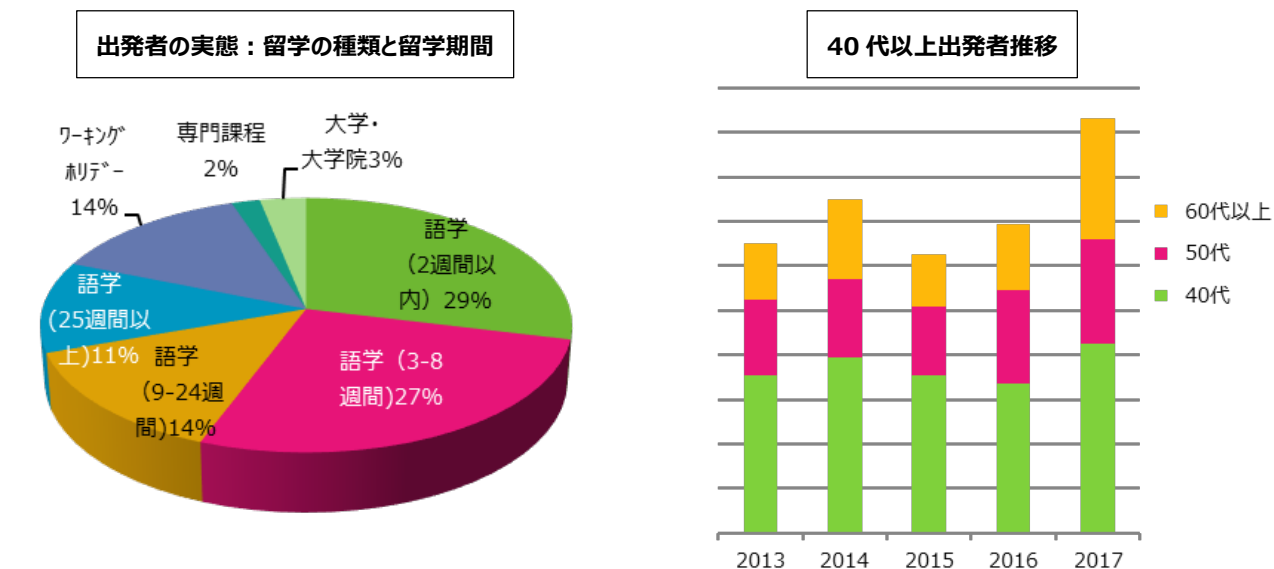


・社会人

留学ジャーナルを利用して出発した社会人は全体で前年比4%増となりました。世代別では、特に40歳以上で2桁の伸びが見られ、40代で27%、50代は12%、60代以上では80%の増加と急伸びしました。

出発者の留学の種類は8週間以内の短期語学留学が最も多く、前年比11.5%増の56%となりました。9週間～1年の長期語学留学は17%減少した一方、18歳～30歳を対象とした1年間滞在できるワーキングホリデープログラムでの出発者は前年より34%の増加となりました。

政府による人生100年時代を見据えた働き方改革が推進される中、大人の学びの場としてリカレント教育に注目が集まり、今後政府や企業の後押しを受けますます伸びていくと推測されます。



留学ジャーナルの考察：

高校生以下の相談者や出発者の増加傾向は、政府主導の英語教育改革、大学入試改革の影響によるところが大きく、早い段階から海外で学ぶことにチャレンジする真剣層に向けて、選択肢が多くなってきているものと推測される。また、「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」高校生コースの認知が広がってきていることも一因と思われる。

熟年世代は仕事や家庭で一区切りがあり、時間とお金に余裕がある年代。昨今の訪日外国人観光客の急増を受けて、学び直しを検討する層が増えている。また定年後の第二のキャリア構築に備えたり、自身の教養を高めたりするための「自分探し」や「社会貢献」、「純粋な楽しみ」のために海外で学ぶ需要もさらに増えていくものと推測する。

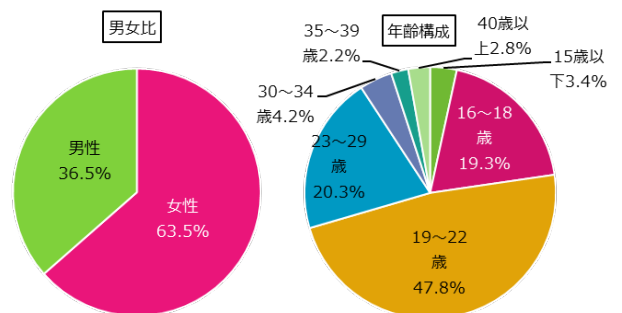
②「留学意識調査アンケート結果にみる傾向」データ編

【調査の概要】

調査対象：全国5カ所（東京・大阪・名古屋・広島・福岡）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方への任意のアンケート結果

回答数：499人

対象期間：2017年10月1日～12月31日



2-1. 「語学学習状況」について

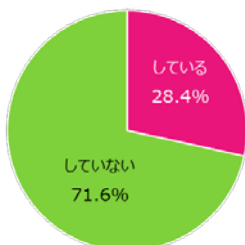
■留学検討者でも日常的に外国語学習に励んでいない実情が明らかに。大学生の8割、高校生の7割が自主的な学習をしていないと回答

昨年留学ジャーナルに相談に訪れた方を対象に、自主的な外国語学習をしているかを調査するため、大学生に「学校以外で外国語を勉強していますか」、高校生に「学校と塾以外で外国語を勉強していますか」とそれぞれ質問したところ、大学生の8割、高校生の7割が「していない」と回答しました。

一方で、社会人の留学検討者に対して「外国語を勉強していますか」と質問したところ、外国語を身に付けなければならない、もしくはレベルアップに早急に対応せざるをえない状況にある方が多いためか、日常的に外国語学習に励んでいる方は5割との結果になりました。

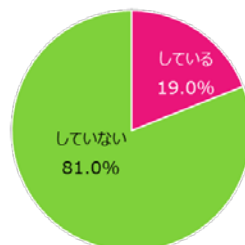
外国語学習状況（大学生）

Q:現在学校以外で外国語を勉強していますか



外国語学習状況（高校生）

Q:現在学校と塾以外で外国語を勉強していますか



外国語学習状況（社会人）

Q:現在外国語を勉強していますか



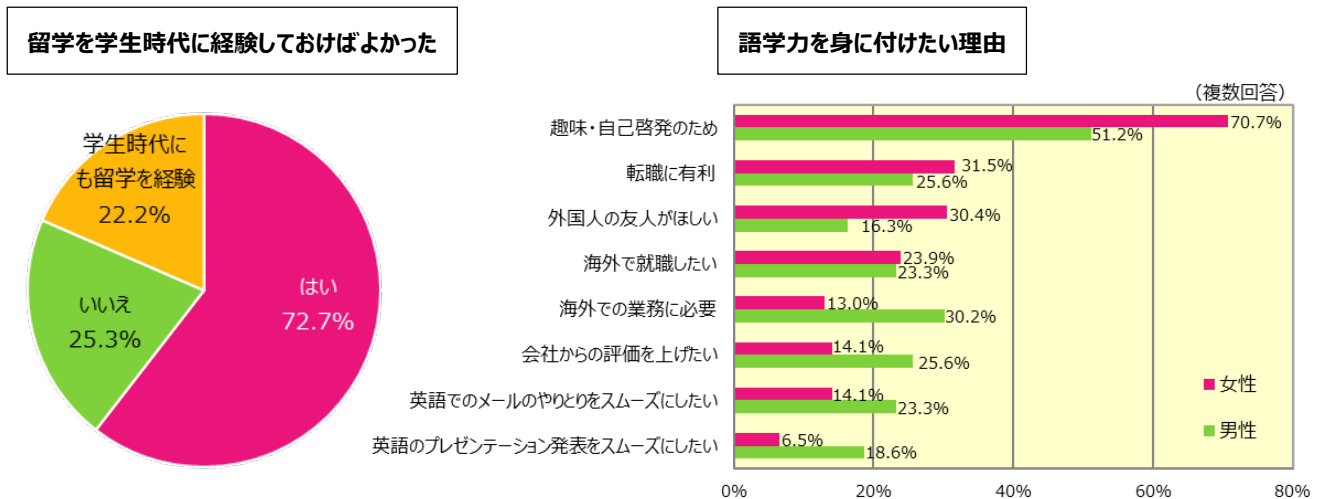
留学ジャーナルの考察：

社会人が必要に迫られて外国語学習を日常的に行っている状況に対して、大学生や高校生が自主的な学習をしていないのは、学内での英語教育の充実などの影響はあるかもしれない。実際のところ、留学経験者の多くから、日本にいる間にもっと勉強しておけば良かったという後悔の声を聞くことが多い。留学前から外国語学習を継続的に行っていくことで、現地についてから少しでも自信をもってコミュニケーションを取れるようにしておくことが有意義な留学への近道でもある。

2-2. 「社会人が考える学生時代の留学経験、留学の目的」について

■7割の社会人が「留学を学生時代に経験しておけばよかった」と回答

留学をしようと思ったきっかけとして「もともと留学に興味がある」と答えた100名に「留学を学生時代にやっておけばよかった」と後悔の気持ちはありますか？と尋ねたところ、7割が「はい」と回答しました。また、社会人の9割の回答者が「語学を習得したい」としていますが、語学力を身に付けたい理由は男女ともに「趣味・自己啓発のため」（男性51.2%、女性70.7%）がトップを占めました。男女別の結果では2位以降が異なり、女性は「転職に有利（31.5%）」、「外国人の友人がほしい（30.4%）」と続いた一方、男性では2位に「海外での業務に必要（30.2%）」、次いで「転職に有利（25.6%）」、「会社からの評価を上げたい（25.6%）」との結果になりました。



留学ジャーナルの考察：

グローバル社会と言われ、世界が身近に感じられるようになった昨今、「学生時代に留学に挑戦すべきだった」と後悔する社会人が多いことがわかる。しかし、実際には、社会人としての経験がある今だからこそ、海外で気づくことや得られることも多い。欧米では、古くから生涯学習の門戸が幅広い年齢層に開かれている。大人の学びの需要は政府・企業の後押しによってますます伸びていくものと推測。海外で学ぶことを検討する層も人材採用の多様化に対応し、これまでの語学力強化だけではなく専門知識の習得など学位取得への需要も増加していくのではないだろうか。